

わる悪いことをすると、いつも気がとがめてしかたがありません。モーハンダースはあやまって、どんな罰も受け入れました。

ガンディー家は、商人や職人の階級、ヴァイシャに属していました。何世代も前は食品を売る商人でした。でもそれは昔のことで、いまはお父さんは国の役人です。家族はモーハンダースにも、いつかお父さんと同じ仕事についてほしいと願っていました。

一家はお金持ちではありませんが、使用人をひとり雇うことができました。ウカという名前の少年です。

ウカはどの階級にも属していません。当時インドに何百万といた「不可触民」でした。「不可触民」の人々は「けがらわしい人」と考えられ、どんな地位も与えられていませんでした。

そうじや糞尿処理など、もっとも嫌われる仕事をして、どの階級の人々からも避けられていました。

ある日、お母さんはモーハンダースがたまたまウカに触れたのを目にしました。するとお母さんは「手を良く洗いなさい、しっかり洗わないと、けがれが移ってしまうわ」と言ったのです。モーハンダースはお母

カースト制度

ヒन्दゥー教の社会にはカースト制度という身分制度があり、生まれたときから階級が決まっていた。上の階級の人は下の階級の人よりも身分が高く、それは代々引きつがれました。一番上はバラモンといい、司祭と学者の階級。次はクシャトリアで、戦士と王族の階級。ガンディーの家は商人と職人のヴァイシャに属していました。一番下の階級シュードラは一般の労働者です。どの階級にも属さない人は、ダリットまたは不可触民と呼ばれ、だれからも避けられていました。いまはインドでも、カーストによる差別は法律で禁止されていますが、完全になくなったわけではありません。

